

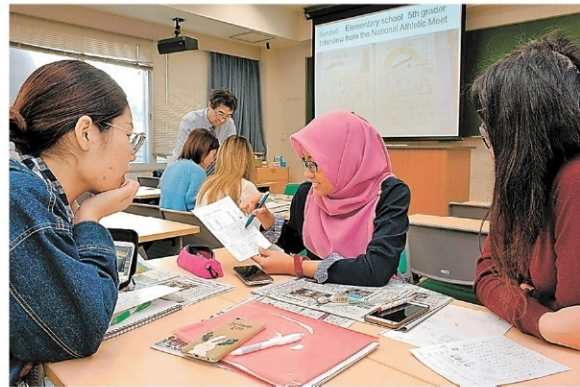
## 留学生がはがき新聞挑戦 福井大 記事の書き方学ぶ

福井大の海外留学生が授業の一環で、はがき新聞作りに取り組んだ。最近印象に残った体験や身の回りで起こったことを発表し、日本語による情報発信技術を学んだ。

同大国際センターの佐藤綾准教授が担当する「応用日本語Ⅱ」では、学生が「日本の不思議なところ」「福井の観光地」といったテーマで取材し、新聞形式で発表する。今後の取材、執筆を前に、新聞の作り方を学ぼうと福井新聞社から徳島泰彦N I Eコーディネー

ターを講師に招いた。

中国や台湾、マレーシアなどの学生21人が受講。徳島コーディネーターは、はがきサイ



できあがった「はがき新聞」を紹介する留学生  
＝福井市の福井大文京キャンパス

ズの原稿用紙に見出しを付けて仕上げる「はがき新聞」について説明した後、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」の「5W1H」を意識して書くことが大切と伝えた。

ある学生は最近、ラーメン店で始めたアルバイトについてイラストを交えて紹介。別の学生は県国際交流会館で行われた留学生のためのイベントで浴衣の着付けや茶道を楽しんだことを丁寧な日本語で書き上げ「日本の生活に慣れたい」とまとめた。

国際地域学部4年のワン・シェンハンさん(22)＝台湾出身＝は「分かりやすい授業で楽しかった。読む人に伝わりやすい見出しの付け方やレイアウトが勉強になった」と話していた。(宇野和宏)